

講義名	財務会計論 (マーケティング学科)			授業形態	
担当教員	島田 奈美	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

会計には、企業の外部の利害関係者（株主、取引先、消費者など）に対して情報を提供する財務会計分野と、内部の利害関係者（経営者）に対して情報を提供する管理会計分野がありますが、本授業では前者について学習します。財務会計は、財務諸表（貸借対照表や損益計算書）を通じて、外部の人々に企業活動を忠実に開示する役割を主に果たしてきましたが、現在では会計（制度）の変化が企業活動自体にも変化をもたらしているということも事実です。そこで本講義では、単に財務会計の基礎知識を学習するだけではなく、新聞やニュースで取り上げられた会計に関する記事をもとに、会計制度の変化が企業経営に与える影響を解説・確認することを通じて財務会計の基礎を身に付けていきます。本講義では、まず、財務会計の学習に必要な基礎知識として、簿記の基本的な部分の学習を通じて、財務諸表の仕組みや計算構造を確認します。次に、これらを定める会計制度の理論的背景を学習したうえで、会計制度の変化が企業経営に与える影響について確認し、会計が社会で果たす役割を学んでいきます。

到達目標

- (1) 簿記の知識の習得をできるようにする。
- (2) 財務会計の基礎知識の習得をできるようにする。
- (3) 新聞記事やニュースで取り上げられる会計関連記事を読み、理解できるようにする。

提出課題

講義内容の理解度を確保するため、次の課題を課します。

- ミニレポートを毎授業毎実施
- 中間試験(または課題レポート)を1回実施

課題の実施方法については、講義中の指示に従ってください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験（または課題レポート）およびミニレポートを実施した後、解説を行います。

評価の基準

- ・中間試験または課題（30％）：講義内容の理解度を確保するための総合問題
 - ・毎回のミニレポート（30％）：毎回の授業内容の理解度を確保するための個別問題。
 - ・期末課題（40％）：講義内容の理解度を確保するための総合問題
- 以上を総合的に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

- <注意>
- ・講義資料は、講義中に配布します。欠席者等への対応としてキャンパスクロスへもアップしますが講義の進捗の關係で遅れることがあります。
 - ・中間・期末課題は定期試験と同様の扱いとし、提出期限は厳守とします
- <助言>
- ・専門用語や概念的説明が多く、理解しづらい内容となっています。関心が持てる内容かどうかを確認するために、事前に「企業会計入門」を履修することを強くお勧めします。
 - ・概念的説明をより具体的に理解するために、簿記のテクニク（仕訳、転記）を使って説明をします。したがって、「基礎簿記」、「商業簿記」を履修済みあるいは履修中であること、あるいは、日商簿記検定3級の知識があることが望ましいでしょう。

教科書

.使用しない。

参考図書

.財務会計講義[第23版].	桜井久勝	中央経済社	4180	978450242301
.財務会計入門.	田中健二	中央経済社	2860	978450237831

その他

テキストを使用しません。講義資料を配布します。

授業計画

1. 会計の意義と領域
2. 財務会計の機能
3. 企業会計の法規制(1)：制度会計、会社法による会計
4. 企業会計の法規制(2)：各種商品取引法、法人税法
5. 簿記の基本(1)：複式簿記の構造
6. 簿記の基本(2)：損益計算書、貸借対照表
7. 簿記の基本(3)：貸手資本等計算書、キャッシュ・フロー計算書
8. 簿記の基本(3)：利益計算と財務諸表
9. 1から8までの講義のまとめ
10. 会計理論と会計ルール
11. 企業会計原則(1)：真実性の原則、正規の簿記の原則、明瞭性の原則、継続性の原則
12. 企業会計原則(2)：保守主義の原則、資本・利益区分の原則、単一性の原則、重要性の原則
13. 利益測定の基本概念
14. 資産測定の基本概念
15. 10から14までの講義のまとめ及び期末課題の説明

*講義の進捗度により、講義内容等が変更する場合があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> U：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> E：グループワーク
<input type="radio"/> O：プレゼンテーション	<input type="radio"/> K：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> K：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・復習を中心とした学習を行うことが重要です。具体的には、各回に配布した資料を熟読し、自分で要点をまとめることや、重要な用語を記憶するなど（4時間程度）です。
- ・講義内容の理解を確認するためにミニレポートと課題レポートを実施します。これらのレポートを自身の理解度を確認する目安にしてください。そして、ミニレポートや課題レポートを見直し、授業の振り返りを行うこと（4時間程度）が重要です。
- ・不明な点があれば、授業終了後に直接またはメールを通じて質問してください。早急に、自身の疑問点を解決するように努めてください。このような復習の積み重ねが講義全体の理解につながります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

目標(1)～(3)を達成することで、DP(1)に貢献できる。各業界の動向や問題点について、会計の観点から理解する基礎知識を身に付けることができる。これをもとに、会計や財務という観点から企業マネジメントに関する基本的な課題意識が可能となることが期待される。授業計画の第1回目から第15回目の講義内容全体が、各業界の動向や問題点を会計の観点から理解するための基礎知識の習得に関連していることから、DP(1)に間接的であるが貢献している。また、目標(1)と(2)を達成することで、DP(2)に貢献できる。簿記の知識を蓄えに行い、その知識を踏まえて財務会計の基礎知識の習得を行うことから、企業の財政状態や経営成績等に関する情報について、基本的な分析が可能となる。ただし、高度な財務分析および財務諸表の作成に関しては貢献しない。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考